

### 昭和信用金庫の現況 2020

**令和1年度 事業のご報告** (平成31年4月1日~令和2年3月31日)











創業昭和7年本店下北沢





# 昭和信用金庫は87年前

昭和金融恐慌に起因する不況にようやく曙光が差し、有限責任昭和信用組合として設立されました。

経済復興が進展し始めていた時期です。

地元の皆さまによって設立されました。「相互扶助」「共存共栄」を目的とした金融機関として、当金庫は、地元商工業者がその窮状を脱するため、当乗の波に乗れない多くの中小商工業者がいました。しかし、長年の不況の痛手を受け、資金難にあえぎ、

## 日本経済はいま

皆さまにおかれましても、ご苦労のことと拝察いたします。 新型コロナウイルス感染症の拡大によって生じているさまざまな影響により、 少子高齢化による人材不足や事業承継といった現代の問題に加え、

## 昭和信用金庫はいま

役職員1同、1丸となって、地域の皆さまのお手伝いに取り組んでまいります。 地域の皆さまや地域経済を支える使命を、いまこそ全うするべく、 創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、

1

### 経営理念

昭和信用金庫は、創業の理念である 「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、

第一に、お取引先のご繁栄を願い誠意を尽くします。

第二に、地域社会の発展に貢献いたします。

第三に、調和のある健全経営を目指します。

### 金庫の基本方針

国民大衆の皆さまから、常に親しまれる金融機関として、 地域経済の発展に貢献することを念願として、

- 1. お客さまに親切に利益と繁栄を
- 2. 健全かつ積極的な経営を
- 3. 金庫に働くものに明朗な職場と安定した待遇をモットーとして業務を推進する。

### 長期経営戦略のビジョン(平成27年度~)

お客さまとのFace to Faceによるリレーションを強化し、経営理念の下、顧客の課題解決に向けて情熱を持ち一緒になって考えることができる信用金庫人を長期的に育成し、身近な相談相手として寄り添える「地域になくてはならない金融機関」を目指す。

### 中期経営計画(平成30年度~令和2年度)

### ──── 目標 -

「顧客価値の創造 と

「金融機関価値の創造」を両立させる「共通価値の創造」 に取り組む。

### ---- 戦略目標 -----

Action! 徹底的に『重点地区政策』する。 重点地区内の全てのお客さまの全ての課題を、 あらゆるアドバイス・商品・サービスを総動員して、 組織的・科学的な活動によって 倍増した面談量を活用し、 感謝される水準で解決する。

### 昭和信用金庫の概要

創 立:昭和7年12月17日 純資産:242億1,774万円 出資金:13億1,986万円 会員数:22,326名

本店所在地:世田谷区北沢1丁目38番14号

預 金: 4,163億3,046万円 貸出金: 1,856億9,316万円

店 舗 数:本支店19店舗、店外ATMコーナー2ヵ所

役職員数:328名

営業地区:東京都23区、調布市、三鷹市、狛江市、国立市、日野市、

府中市、稲城市、武蔵野市、多摩市、西東京市、小金井市、

国分寺市、小平市、立川市、東久留米市、および神奈川県川崎市多摩区・麻生区

(令和2年3月31日現在)

### 目次

皆さまへのメッセージ
大好きな街応援します
▶金融円滑化への取組み 5
▶創業・新事業支援への取組み 6
▶お客さまの経営課題解決の支援 7
▶お客さまとともに 9
▶地域社会とともに11
▶働きやすい職場づくり
<b>▶</b> あゆみ ······· 14
令和1年度の業績15
内部管理態勢
▶リスク管理 ·······17
▶コンプライアンス (法令等遵守) ········ 18
▶お客さま保護の方針と態勢19
総代会制度21
経営組織23
営業のご案内
計数資料28
開示項目一覧53
店舗ネットワーク54

- ◆本誌は、信用金庫法第89条(銀行法第21条準用)に基づいて作成したディスクロージャー資料です。
- ●記載している計数は、金額は単位未満を、%は小数点第3位を切捨てで表示しています。

### 皆さまへのメッセージ



### はじめに

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼 申し上げます。

皆さまにおかれましては、このコロナ 禍にあって、ご苦労もいかばかりかと拝 察いたしております。

このたび、令和1年度の経営内容や事業活動をご報告する『昭和信用金庫の現況2020』を作成いたしました。是非お読みいただき、当金庫への一層のご理解をいただければ幸甚です。

### 当金庫を取り巻く経営環境

日本経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、緩やかな景気回復 基調にありましたが、本年度に入り、新型コロナウイルス感染症の拡 大により、経済環境は極めて悪化しており、この影響度は未だ測るこ とができません。

当金庫のお客さまも例外ではなく、多大な影響を受けており、さらなる景気悪化による信用コストの上昇も見込まれることから、金融機関の収益状況についても、厳しい状況が続くことが想定されています。貸出金利の低下は、歯止めがかかっておらず、それに伴い預貸金利鞘が低下し、本業である貸出による収益確保をさらに難しくしています。

このような状況下ではありますが、信用金庫は地域経済を支えるインフラとしての役割を担っており、それを継続的に発揮していくための安定した収益基盤の確保が求められています。

### 令和1年度の業績

令和1年度の業績につきましては、預金残高が4,163億円と前期比28億円増加、貸出金残高につきましても、1,856億円と前期比37億円の増加となりました。収益面では、貸出金の増加と経費削減の効果により、金融機関の本業の利益を示す業務純益が増加しましたが、経常利益、当期純利益につきましては、貸倒引当金戻入益の減少により、減益となりました。

### 中期経営計画を推進

当金庫では、平成30年度を初年度とする3か年の中期経営計画「Action!徹底的に『重点地区政策』する。」を掲げ、「重点地区内の全てのお取引先の全ての課題を、①あらゆるアドバイス・商品・サービスを総動員し、②組織的・科学的な活動によって倍増した面談量を活用し、③感謝される水準で解決する。」として取り組んでおり、令和1年度は貸出金の増加につながるなど、一定の成果を上げています。

### 展望

令和2年度は、中期経営計画の最終年度を迎えます。緊急事態宣言による外出自粛や休業要請による営業自粛など、お取引先の皆さまにも極めて厳しい状況が続いています。コロナ禍が、地域経済に対して、今後どのような影響を与えるかは、現時点では先行きを見通すことはできない現状となっています。

しかしながら、昭和信用金庫はお客さまがお困りの時こそ、そのお役に立つのが使命です。創業の精神である「相互扶助」「共存共栄」に基づき、地域経済、地域の皆さまを支える使命を全うするため、従来以上に全力でお客さまのご要望に対し、きめ細かく対応していく所存です。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご愛顧とご高配を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和2年7月

ᅖ 内藤 博